

# VB.NET

コンポーネント活用講座  
～ 教養課程 ～

## スモールパーツ プログラミング

第13回

小森 大輔 KOMORI, Daisuke

### List View コントロール — Part 1 —

#### Technology Tools

- Visual Basic .NET
- Visual C# .NET
- SQL Server 2000
- Oracle 9i
- Access 2002
- ASP.NET
- Internet Information Services
- Other:

#### Level



#### Samples

・この記事で取り上げたソースコードおよびサンプルプログラムは、付録CD-ROMの¥DOTNET¥SMALLディレクトリに収録しています。

##### ¥VIEW1

列ヘッダーとサブアイテムの追加

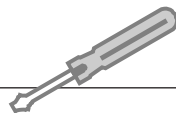
##### ¥VIEW2

ColumnHeader クラスを直接指定した列ヘッダーの作成

##### ¥VIEW3

List View SubItem クラスの配列からアイテムを作成

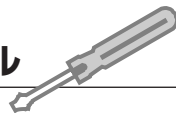
#### はじめに



本連載は、Visual Basic .NET (以下VB.NET) の標準コントロールにスポットを当て、とことん使い込んで、その機能や役割を探ってゆきます。

前号までに、ListBox や ComboBox といった、ユーザーに項目を選択してもらうような場合に使用するコントロールについて見てきました。その流れから今回は、リスト系のコントロールの中でも最も高機能な、ListView についてお話しします。

#### List View コントロール



ユーザーに項目を選択してもらう必要がある場合に、ListBox などのリスト系のコントロールを使用します。しかし、たとえばある項目と共に、その項目に関連した複数

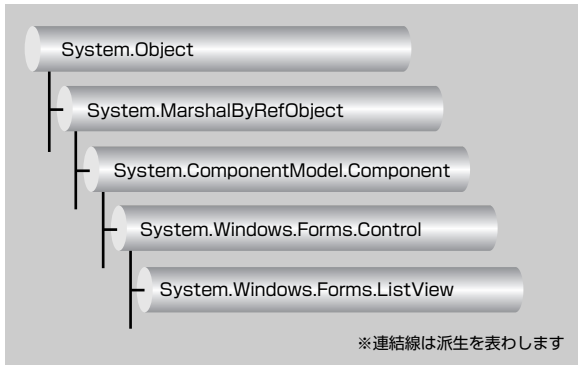
の内容を表示したい場合にはどのようにしたら良いでしょうか？

ListBox コントロールの項目が選択された際に、その項目に関連したデータを配列から取得して、ラベルなどに表示しますか？ それとも、ListBox コントロールをオーナー描画して、項目に関連したデータをタブで区切って同じ行に表示しますか？ どちらもとても面倒なコーディングになりそうですよね。

このような場合にとても役に立つのが ListView コントロールです。ListView は、ListBox コントロールと同じようにユーザーが選択できる項目のリストを表示することができるコントロールで、図1のようなクラス階層になっています。“Windows エクスプローラの右ペインに表示されるリスト” と言えば一番わかりやすいですね。

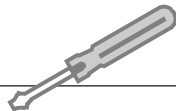
ListView コントロールの特徴としては、次のようなことがあげられます。

図1：ListView階層図



- ・リスト項目にアイコンを関連付けることができる
- ・リスト項目を、「大きいアイコン」「小さいアイコン」「リスト」「詳細」の4つの表示形式で表示できる
- ・詳細表示の場合に、リスト項目と同時に、項目に関連したサブアイテムを表示できる
- ・各リスト項目にチェックボックスを付けられる
- ・各項目のテキストをユーザーが変更できる

## アイテムの追加と削除

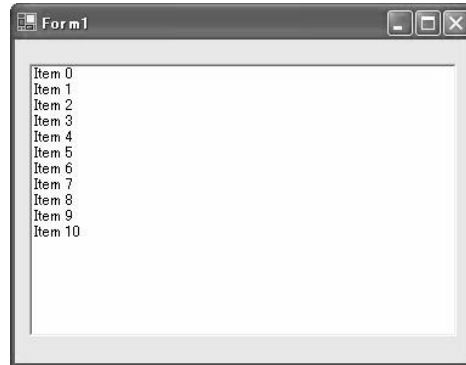


ListViewコントロールへのアイテムの追加や削除は、ListBoxなどの場合とほぼ同じです。Itemsプロパティが表わすListViewコントロールのアイテムのコレクションであるListView.ListViewItemCollectionクラスのAdd、AddRange、Insert、Clear、Remove、RemoveAtなどの各メソッドで行ないます。BeginUpdateメソッドやEndUpdateメソッドを使用した描画を抑制することによる高速化も同じように使用できます。

これらのメソッドの説明については、前号までのリスト系コントロールで何度か説明しましたので割愛します。また、後述しますがListViewItemクラスの新しいインスタンスを作成し、それをListViewコントロールのアイテムとするような追加方法もあります。

リスト1はListViewコントロールへAddメソッドでアイテムを追加する例で、図2はこのサンプルの実行画面です。

図2：Addメソッド



リスト1：Addメソッドの使用例

```
Protected Sub SetInitializeValue()
    Dim i As Integer

    With ListView1
        For i = 0 To 10
            .Items.Add("Item " & i.ToString)
        Next i
        .View = View.List
    End With
End Sub
```

## アイコンの関連付け

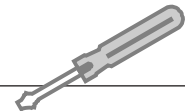


図2のListViewコントロールは単にアイテムテキストを追加しただけの状態なので、ListBoxを使用するのと何ら変わらないものになっています。ListViewコントロールの大きな特徴のひとつに、各アイテムにアイコンを関連付けることができるという点が挙げられます。

ListViewコントロールのアイテムにアイコンを関連付けるには、ImageListコントロールを使用します。リスト2は、ListViewコントロールのSmallImageListプロパティに、あらかじめ16×16のアイコンを格納したImageListコントロールを指定し、アイテムを追加する際に各アイテムに関連付けるアイコンを指定しています。Addメソッドはオーバーロードされており、アイテムテキストと同時にアイコンを指定できるようになっています。